



編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物認可

第109号



熊野古道(伊勢路)通り峠道付近の山腹に広がる丸山千枚田

千枚田の初夏

カメラマン 安藤 吉郎

千枚田に蒼い夏がやって来た。五月中旬の田植えから一ヶ月余り経った頃に熊野(三重)の丸山千枚田を訪れてみた。七里御浜から約二十キロ山あいに入ったところに棚田はある。畦(あぜ)の草刈り作業の真最中で、見物客もちらほら。苗の成長も早い。雑草はあつという間に覆い繁る。

畦道が刈られた棚田の曲線は美しい。初めて来たのは十数年前。今でも続いている田んぼオーナー達の田植えの取材だった。今は数台駐車できる見晴らし所が作ってあって、景観にも配慮がなされている。

江戸時代には二千枚を超える田があったらしいが、現在は一千三百枚ほど。一時、五百七十枚に減少したが、三分の一を都市住民に田んぼのオーナーになってもらう等して復活を遂げた。もちろん、オーナー以外でも田植えや稲刈りの体験は出来る。不揃いの苗を植え直すなど地元農家の人達の維持管理も大変だと容易に想像できる。

(次頁へ)

過疎・高齢化の中で棚田の保全活動は非農家、都市住民との絆づくりを増やし着々と受け継がれ「農村に潜む力」を発信し続けている。七月中旬には虫送りの行事も行われる。話は余談になるが、ある写真家から中国雲南省の棚田の美しい風景に出会ったことを聞いたことがある。中国映画でも見た事はあったが訪れたい場所のひとつだ。熊野千枚田も紀伊山地の懐に抱かれた美しい景観だ。

二〇〇四年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界文化遺産になってから今年で十年。そのインパクトは強い。高速道の開通で以前より多くの人が訪れるようになった。参詣道跡である熊野古道(伊勢路)も千枚田の周辺を通っている。その殆どが山越えの険しい峠道で民家も少ない。

昨年、和歌山・田辺市の(大辺路)周辺では香港、台湾、フランスの順に通常の観光地に飽き足らない外国人が訪れたようである。日本は世界有数の「森林大国」だ。熊野の山々は不思議と神々しく見える。



七里御浜から海に向かって吠えている様な獅子岩

雑記 ごまめの歯ざり

「リレーなしの運動会」

運動が得意なうちの娘にとって運動会は毎年楽しみであり、晴れ舞台である。現在小学校6年生だが、1年生の時から学級対抗リレーの選手であった。それが去年、突然、リレーが廃止された。どうも新しく赴任された校長先生の方針や、名古屋市が推奨する「スクールダンスサイズ」を追加したことの影響でリレーがカットされたようだった。

運動会は5月に開催され新年度が始まった早々の出来事で、話し合いや再考を願う時間すらなく決定されたため、運動会終了後も保護者へのアンケートやPTAとの話し合いが持たれた経緯があり、今年度は何かしらの形で復活することを期待していた。子供たちも最後の運動会でリレーをしたいと願い、今年度始まってすぐ自分たちで署名を集め、校長先生へ渡していた。

しかし、今年度もリレーは行われなかった。その理由が、「リレーは選ばれた選手のみで行われるため、平等な種目ではない。運動会全体の時間が長すぎるため、カットするもの考えた時に、全員が参加することができないリレーを廃止した」というようなものであった。私はこの理由にとっても違和感をもった。「平等」とはなんだろうか？

もちろん、運動会に必ずしもリレーが必要でないという意見もあると思うが、リレーは迫力万点で、運動会で一番盛り上がる花形の種目であったと思う。運動が苦手な子にとっても、自分が走るわけではないので負担もないし、クラスの代表を精一杯応援することで参加していたことにはならないのであろうか？

絵が得意な子は作品展で、歌が上手い子は合唱で、掃除が好きな子は日常の掃除で、それぞれの場面で輝ける瞬間があることだろう。そして、「みんな違って、みんないい」と学ぶのではないだろうか。それを小さい時から「平等」というたがをはめることは、子供の個性という可能性を摘むことになるのではと思う出来事であった。

(会報委員 鈴木 奏子)

変わる社会を信じて

NPO法人コンビニの会 代表理事

社会福祉法人エゼル福祉会 理事

宮川 優子

今年は激動の1989年から、ちょうど二十五年になります。あの年、日本では元号が

平成に変わり、経済状況はバブル景気で絶好

調、世界では6月に中国で天安門事件があり、

東欧諸国の民主化が始まり、年末の米ソ首脳

によるマルタ会談で、冷戦の終わりが告げら

れました。

私にとっては、5月の末まで高校で働き、

そのまま産休に入り、7月に息子が生まれ、

新米ママとしての生活がスタートしました。

大学生の頃はテレビを持っていなかったし

就職してからは忙しすぎてテレビを見る暇

がありませんでした。長い時間を家で過ごす

生活になり、テレビから流れてくる世界の變化に驚いたものです。

特にベルリンの壁が崩れる映像には衝撃

を受けました。第二次世界大戦後、東西に分

断された国家のなかで、ドイツの首都だった

ベルリンは連合国に占領された西ベルリン

と、ソ連に占領された東ベルリンに分けられ

ました。当初は自由に往来できたものの、東

側から西側への人口の流出が止まらず、19

61年に建設が始まり西ベルリンは壁の中

に閉じ込められました。1989年11月に

検問所が解放された後、市民がハンマーで壁

を壊す映像やブランデンブルク門の下が喜

んでいる人々に埋め尽くされていた映像に感動したものです。

というのも私は1969年夏から197

0年秋までの5〜6歳の時期に父の仕事で

西ベルリンに暮らしていたからです。日本で

の生活と全く違う環境に驚き、幼いながらも

多くの事柄が印象深く記憶に残っています。

泣き虫でグズのゆうちゃんにとっては、観光

名所のブランデンブルク門は恐怖の思い出

です。国境になっている門には近づけず遠く

から見るだけです。近くの壁には東側から

逃亡しようとして失敗し銃殺された人への

花輪がいくつも飾ってあり、銃の痕跡だらけ

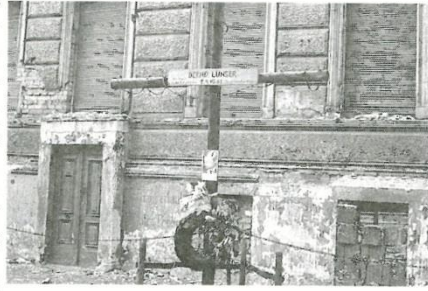
の自動車も展示されていました。数十メートル

ルしか離れていない向こう側に行けない国

境の絶望は私にもわかりました。

予備校で政経科の講師として再就職し、国

際政治を教えながら当時の状況が冷静に理



亡父が撮影しました。十字架には亡くなった方の名前が刻まれています。

解できるようになりました。自国を逃げ出すととする国民に銃を向ける東ドイツが長く続かざるが、人間にとつて自由は命の次に大事であること、個人の願いが集まると大きな意志となり勢いを持つことなどに気づかされました。国家や社会は不動のものではなく、変えられるものなのです。

★ ★ ★

さて、ベルリンの壁が崩壊した頃は息子が脳性マヒであることに気づかずのんびりし

たものでしたが、その後の数年間は息子の療育、仕事などで忙しくなり流行歌も知らず、友人とのお付き合いもできないほどでした。養護学校に入学しても送り迎えにくたびれ毎日だったように記憶しています。

先輩のお母さん方に重度の障害を持つ子は卒業後の進路が大変だと聞かされてきました。しかし、在学中に支援費制度や、その後の自立支援制度など公的な制度が整ってきました。老人に対する介護保険制度や保育行政への関心の高まりなど家庭が担うのが当然だと思われていたことに少しずつ行政の支援が差し伸べられるようになりました。

その頃に利用者の親としてNPO法人コンピニの会の発足に関わることになりました。市江さんのユニークな発想や大川さんの行動力を間近に見て、この人たちを頼りにしていれば息子の将来は明るいぐらいのぼん

やりした考えで参加していました。

市江さんが障害当事者として語る言葉は周囲の人の心を動かし、それがさらに伝わり支援の輪を大きくしていきました。制度や法律は急に変えられるけれど、人々の意識や社会を変えるのには丁寧な時間をかけないと定着しないこともわかりました。

この間の活動は、ご存知の通り、当初は支援者である会報読者の皆様に物心両面で支えられ、事業が安定してからは温かく見守っていただき感謝の限りです。大変なこともありましたが、何も無いところから障害のある人の生活を支える大きな組織になっていく過程を共有できたことは幸せでした。

★ ★ ★

さて、息子が高等部を卒業する頃には、制度も整い、幸い希望通りの通所施設に通うことができました。みなさんに支えられて18

キロシかない小さな体でも病気もせず、元気に毎日笑顔で暮らすことができています。今春から私の仕事が忙しくなったので、新しいヘルパーさんに来てもらうことが増えました。以前は伝えたり仲良くなったりするのに時間がかかりましたが、慣れるのが早くなり、どなたに対しても自分のペースを守っているように思えます。私がいなくても困ることが少なくなったようです。毎日の暮らしの中で息子から、言葉では発せられませんが、瞳の中から「そんなに慌てなくていいよ。僕は待てるから。」と慰めてくれたり、励まされたりすることが伝わってきます。

これから10年くらいは家族三人でみなさんの力を借りながらの生活が続けられたらいいなあと考えています。

「存じのとおり障害者政策は色々問題点があるものの以前に比べれば充実していま

す。どのような状況にあらうとも、もつと快適でもつと楽しく安心できる生活を目指すのをあきらめてはいけません。障害



のある人たちは社会の隅でひっそり暮らしているのがほとんどです。このたびNPO法人の代表理事を大川さんから交代し、お引き受けすることになりました。社会を変えるのは無理ですが、せめて手の届く範囲の人々が幸せになるために今の私に何ができるのだろうと考えています。「もっさんさん考えたのだし、そろそろ何かやったらどう」と息子から背中を押されているような気がしています。

また、全く具体的ではないのですが、障害のある人が安心して暮らせる住まいの問題に取り組みたいと考えています。自立したく

ても限られた年金の中で快適で安全な住まいを探すのは大変難しいことです。まず今年度は話し合いの場を持つことを計画しています。

息子を含めて障害の重い人が自由に伸びやかに生きられる社会はどの人にとっても生きやすいことでしょう。これからも引き続き、エゼル福祉会とコンビニの会をご支援ください。



息子は7月で25歳に。眼力と愛嬌でほとんどのことを解決しています。

医療機関でヘルパーは必要ない？

エゼル福祉会 生活支援部

グループ主任 榊原 芳典

エゼル福祉会が支援を行っている、障害のある利用者さん(以下、利用者さん)も年齢を重ねて四十歳を過ぎる方が多くなりました。加齢に伴い、障害の重度化や病気の発症が懸念されています。実際、通院の増加が顕著になり、ここ数年は入院に至ることもありました。利用者さんの親御さんも六十歳を超えられた方が多く、家庭内での介助力は限界を迎えています。日常的な外出や、自宅内であれば、衰えた家族介助力をヘルパーが補ってなんとか暮らしているのに、それが長期の入院ともなると一気に破綻してしまいます。

通院・入院支援のニーズに対して、コンビ

ニハウスも重要性を認識していますが、他の外出支援の様に取り組みない制度的課題が存在します。病院内は完全看護で医師・看護師が全て対応するため、ヘルパーを利用できないことになっていくのです。

しかし現実には、初対面の看護師や医師が「介助」や「意思確認」をすることは困難で、ヘルパーに本人の意思の伝達を求めることが殆どなのです。

● ●
 普段、ヘルパーが支援を行う際、利用者さん各自の障害の個性性はもちろん、そのときの状態など様々な要因に配慮して対応することが求められます。それが、日常とは違う通院や入院の場面では特に重要なので、障害のある方から信頼を得ているベテランの常勤ヘルパーを派遣して対応しています。

ほとんどの通院・入院には家族の付き添いが必須となり、家族が付き添えない場合は、常勤ヘルパーが無報酬のボランティアで付

き添うこととなります。グループホーム等の制度に、通院や入院に対する報酬加算がありますが、院内における介助への報酬ではなく、準備や調整の対価であるため、通常の介助の報酬とは比べられないほど低額となります。

ヘルパーが利用できないため、家族が付き添えなくなると専門の家政婦等を利用される方もいます。しかし、公的なサービスであるヘルパーとは比較にならないほど高額で、長期間の利用は困難です。

この十年間エゼル福祉会では親亡き後に備えて障害のある方が一人で生きていくための支援を懸命に作ってきました。年を追うごとに増えていく入院時の介護・介助が認められないままでは障害のある方の自立生活そのものの継続が危ぶまれるのです。

介助とは、それを必要としている方が「居



る場所で行われる行為であり、その場所が自宅であれば自宅が支援の場所であり、病院であれば病院が支援の場となるはずで、それが医療制度、福祉制度という利用者の必要には関係のない行政区割り決められることに問題があると思います。

これらはエゼル福祉会だけの課題ではなく、全国で事例が報告されています。それに対する厚生労働省の見解はいつも、「院内では完全看護が実施されている」でした。看護には、広義で介護や介助の意味も含まれますが、自分たちが普段行っている介助支援は、長年に渡って積み上げられてきた障害のある方との信頼関係が基礎となって「安心」につながっているのです。

● ●
苦しくても看護師を呼ぶブザーが押せない、障害に依る肉体的な緊張がある為に着替への手順に個別対応が必要、言語障害が重く発する言葉を聴き分けられるのは日頃介助

している親やヘルパーだけ。そのような利用者さんの意思を汲み取って介助し、医師や看護師に伝えるヘルパーの院内利用を認めることで、利用者さんの不安が解消され、良い治療に繋がるのではないのでしょうか。

● ●
そういった事例に基づき、名古屋市では、2009年より、重度障害者入院時コミュニケーション支援が実施されました。この事業は、意思疎通が困難な重度の障害者が、医療機関に入院する場合、医療従事者との円滑な意思疎通を図ることを目的にヘルパーの派遣を認めたものです。身体に触れるような直接的な介助は支援対象外ですが、意思疎通にヘルパーの必要性を認めて具体化した、全国的に見ても画期的な事業です。

しかし、対象は市内在住の方で、幾つかの要件を満たさねばならず、エゼル福祉会の利用者さんでも該当されない方が多くいます。また、支給時間、報酬ともに通常の支援よりも制限されており実に多くの課題が残ります。

す。エゼル福祉会は独自の入院時支援を整備しましたが、これまで挙げてきた課題は根本的に解決されていません。

● ●
今後、ヘルパーによる通院・入院支援の必要性が益々現実味を帯びていくなかで、院内外を問わず医療職との連携は不可欠になっていきます。そのとき、自分たちヘルパーは、日常的に利用者さんの身近に居る理解者の一人として、医療機関などの専門職から必要とされる存在として認められるよう研鑽を積み重ねばなりません。

医療と福祉はそれぞれの役割を分担する関係であり、障害のある方達にとってはこちらも大切な支援者であることを理解して頂きたいと願っています。





昨年5月から頂いていた産休・

育児休暇が明け、この6月より生

活支援部に復帰することとなりました。全国的に待機児童問題が叫ばれている中、運良く

保育園も早くに見つかり、最初こそ泣いてい

た息子も1週間経ったころには保育士さん

と楽しく遊べるようになり、保育園生活を満

喫しているようです。預け先については安心

して職場復帰を迎えられました。

約1年間の休業は、慣れない育児に四苦八

苦しながらも時間に追われることもなく、

ゆったりとした時の中でわが子の小さな成

長の一つ一つを見つめ、それを喜べる心の余

裕がありました。

きつとこのような成長（発達）をとともに喜

びあえるきつかけは、コンビニハウスの日々

の現場の中にもたくさんあったのだと思ひます。

産休明け復帰をして

エゼル福祉会 生活支援部
総合主任 麻生 早紀



利用者が食べたいものを伝えてくれた、嫌

いなことを教えてくれた、一瞬目を合わせて

くれた、身体の緊張が少しずつ解けるよっつに

なつたとか、後輩職員やヘルパーが、利用者

Aさんへの食事介助が上手になった、Bさん

の困りごとに少しずつ近づいている、良い支

援とは何だろうと悩み始めた等、目を凝らし
てみると変化は小さくても日々成長（発達）

し続けていることに気付きます。

しかし、業務に追われ、山積みの課題に押

しつぶされながら利用現場に入っていた頃

は、自身のことも含め利用者や後輩職員、へ

ルパーのできない・できていないことばかり

が目についてしまい、そのイライラをため込

んで相手と向き合うので関係が深まるどこ

ろか、かえってギクシヤクした関係になつて

しまいがちでした。

エゼル福祉会の今後の方針の軸に人材

育成が挙げられています。



これまで特にコンビニハウスでは人材育成の方法が確立されておらず、大部分を職員・ヘルパーの感性や個々の気付き、努力に頼ってきました。

よって、自分で気付かなければ教えられない、努力しなければ成長しないという雰囲気は漂っていました。それだけでは質の高い支援にはつながらないと薄々わかっていながらも、これまでの方法を踏襲していました。

しかし、振り返ってみると後輩職員やヘルパーは全く気付いていないのではありませんでした。ヒントがあれば気づける人、最初は的外れでもだんだんポイントに近づける人、ポイントには気づいているけれど行動に移せない人、誤解をしている人、等それぞれ

ですが成長のきっかけはどの人も持っていたのに、忙しさのあまり彼らの小さな気付きを無いものとしてしまっていたのです。この小さな気付きのサインを拾い上げ、育ていくことが人材育成の第一歩なのだと感じるようになってきました。



1年間のブランクを経ての職場復帰は不安もありました。現場も離れ、障害者を取り巻く情勢からも離れ、仕事をする上で大切にしている考え方の軸がぼやけてしまっているように感じ、自分が何をしなければならぬのか、何ができるのか分からない中で得体の知れないプレッシャーを抱えていました。

しかし、1年間現場を守ってきた職員集団

は想像以上に力をつけ、自分で考えて行動していく姿は成長を物語っており、一緒に働く職員として頼もしさも感じられました。

ベテランがおらず、また若い職員集団ゆえ、経験の少なさから選択肢が見つからなかったり、課題を整理するコツが分からなくて戸惑ってしまったりもしますが、それぞれが素晴らしい力を蓄えています。

これから1年1年経験を積み重ね、良い刺激を与え合いながら、ともに職員集団として成長していきたいと願っています。



《 活動状況 》

5月

- 2日 理学療法 研修
 15日 あいされん暮らしの場交流会(若林)
 西区自立支援協議会 (榊原・若林)
 16日 理学療法 研修
 20日 エゼル福祉会 監事会
 21日 会報発行
 22日 WILL 親の会
 24日 エゼル福祉会 評議員会・理事会
 30日 名古屋生活支援事業所連絡会
 (大川・寺澤・榊原)
 31日 ミュージック・ケア研修 (浅野)



6月

- 1日 ミュージック・ケア研修 (浅野)
 4日 社会福祉法人集団指導 (牧野)
 10日 会報会議
 NPO 法人コンビニの会 理事会
 11日 名古屋生活支援事業所連絡会
 (大川・榊原)
 13日 パルハウス親の会
 理学療法 研修
 接遇・マナー研修 (世古)
 20日 NPO 法人コンビニの会 定期総会
 理学療法 研修
 名古屋生活支援事業所連絡会
 (大川・榊原)
 21日 同朋大学福祉人材フェア (大川)
 26日 WILL 親の会
 あいされん暮らしの場交流会(藤本)

障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会 (障全協)

第32回活動者学習会・地域運動交流会 公開講座

- 日時 2014年8月23日(土) 時間 13時～17時 12時15分受付開始
 場所 愛知県教育会館7階 地下鉄鶴舞線 鶴舞駅下車 北北東へ徒歩15分
 講師 ①発達・発達保障って? 「私」を見直してみる糧としての「発達保障」
 「発達保障」の歴史に学ぶ
 日本福祉大学教授 近藤直子氏
 ②「憲法を守り、社会保障・障害者福祉を切り拓く力」
 佛教大学教授 鈴木 勉氏
 参加費 2000円(資料代込) ※事前申し込み必要 (8/11締切)
 主催 障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会(障全協)
 愛知県障害者(児)の生活と権利を守る連絡協議会(愛障協)
 申込先 電話 052-682-7912 FAX 052-682-7916 (愛障協)
 mail soudan732@nifty.com

事務局コーナー

「ご協力ありがとうございました」

5月～6月（敬称略・順不同）



★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

アイ

(エゼル福祉会)

佐々木正和 ウイル利用者

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

林 勇輝・伊東基成・高塚朱美
本田 真・榊原啓子・伊與田聡登史

(WILL)

原あゆみ・佐藤慶太・竹内まりや
丹羽恵子・小林良生・塩澤しのか
伊納尚男・河田笑子

★ 会報発送ボランティア

佐藤美紀子 半田素子
吉田嘉子 高松陽子

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

伊奈晶子 石原正寅 青木政治 芝田真理子
辻本道子 桑原諸彰 黒田隆広 鍵谷美奈子
高塚朱美 青木美乃 姥 雅規 酒井まみ子
間瀬敬人 中谷友紀 山内良介 福永由香里
峯 彩奈 山前諒汰 水野裕之 臼井裕香
河合尚武 小川阿弓 葛山聖菜 寺田みどり
寺田怜旺 竹内恵子 藤井梨沙 稲垣ゆき奈
東原光江 田口陽介 山内麻衣 高橋なおえ
石原優花 伊藤沙樹 山口愛加 林 和子
神取優香 森島千絵

(WILL)

梶田明宏 森田 衛 武部 文



購読料お振込への御礼

先号の会報購読料へのご協力に、早速たくさんの皆様からお振込を頂きました。

7月5日現在で76人から226,000円のお振込がありましたことをご報告します。

2口以上を振り込んでくださった方が多くいらしたことに深く感謝し、御礼申し上げます。これからも障害者福祉のみならず、様々な社会問題を提起し、多くの皆様にご購読いただけるよう、努力していく所存です。ありがとうございました。

第2回 WILL 夏祭り

日時：8/23(土) AM10:00～PM2:00

会場：エゼル福祉会 WILL 内にて



ゲームコーナー・手作りお菓子販売・ダンスステージ etc...

★☆☆☆ 楽しいイベント盛りだくさん!! ☆☆☆★

エゼル福祉会 WILL

〒452-0813 名古屋市西区赤城町146

社会福祉法人エゼル福祉会

MAIL: will_ningle@xj.commufa.jp

TEL/FAX: 052-505-6089

工房で販売もしています 9:00～16:00(月～金)

土日・祝日休み

* 地下鉄上小田井駅下車
東へ徒歩 15 分



銀行口座

三菱東京 UFJ 銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

郵便振替口座 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0822 名古屋市西区中小田井 2-431

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <http://homepage2.nifty.com/convini/>

E-mail convini@beach.ocn.ne.jp